安政見聞誌 上

第　號

安政見聞誌 上

冊數　共三冊

著者　不明

出所 刊行年月　安政

ヲ1
4209
1

門ヲ1
號4209
卷 1

天災の免れ難きことハ。堯舜社御代より九年の洪水ありし湯の時より七年の大旱ありと云へば。北斗の天災ハ。聖明の御代ハ。過去より稀の天災ありて。庶民少なき通れ難きと知るべし。されバ方今。万民大平の御代ハ。海嘯洪水治し。北斗ハ深しなどと聞とつへでる。ほくものお年蒙り。北斗ハ深しなどと聞とつへでる。ほくものお年代紀のうへ。所ら老翁の茶話と話み。おのひ拾たる気と。近畿内うう東海道。相模辺まで地震津嘯の災ありて。ゆく死亡せるなれど。大江戸辺くまハ真屋ふく。諸人快楽安逸ナ。頃の喜哉寿ぐ。是ハ今

人氏

の変ありみ。南過し居申しし。今年安政二年十月
二日夜亥時。大地震あり。大江戸近國四方廿里ばかり。皆
此災年にのがれ。其の中にもっとも大江戸市中を始め
太酷しきこの。始其地動の發するや地鳴大蛇の音の如き
響ありて。忽地上激浪のうごめく震動き。地裂天陽言うと
難うれ。ふるふ百万の人家。倉庫神社佛寺。傾覆し。是ぞ昔
年穀きわもの。幾ばくといく数知らず。或ち梁ふ折まと
或ちくづれ柱ちまれ。又瓦屋根。二階の下に。彫れ
土蔵の壁ぬ埋れ。なにしろ男女死せ。泣きけび

助ちゆくれよ。死しまのがれ。ようやうれ者。その凄きよ。火
まさ四方ちり巡ること繰出。酷天炎こぶすものへども。人々畏れあり
なる気をうくなれば。心神混乱し。醉ふの如ぎ防ぎ消きん
とすれ念なし。火ち四方を迫ぬうがしものへども。二十余所
ばうに見え。何まの方ち。風吹き来るとも。市中ばうち方
なく蜘けれんと必せうとこ。ふ所ば。真夜半ひ風高う
も静うして。火勢弱く。火さ死者きに及ばざれば。火消人足
ふぐも。甚きくおうしが。慌ちくなるこうもぐ消し。如世
ぬう。是ぞ昔ひめく。災の中ば幸ひめく。此夜風ふきう

塵土の神ふせ守り給へるなるべしと法人いひあへり。扨
夜明ぬる後堂辺のけしき殆哀也。甚哭泣す。
小て虚實ともはべて。縫とぢる紀の結み物ほうをべ。手
四方の物色を彷らへ法つぐ。其の處こゝかしこ小違ひ
色を図し。聞よりまぐひ品を紀。後生の児輩よ。此災厄を
知るべ。枕を高く安らふ眠れ
御代のかしこ者たち我もしんとて。一ツの母子つゞ
ねたる同じ大江戸のうちなる。甚災厄より軽重なる事
なるべ。よりて知り給へ

一 今度の地震ふ火災紀り武家寺社町家ともに内及近国諸国
まで郷書ける所し候之異変有所実録して後代の便りにせんと思ふ
所見聞ふ録日の巡見を得て世書のごとく
紀すと雖も繁く知るべ

一 (一)此所紀しなるハ甚焼失元を知んに早く方絵図多る便とすべ
甚国化境の人甚見んとする所ハ世書録して是を早見出しとす
一 寺社の破損数ケ所ハ墨書のごとく所ハ紀等化境の人ハ
結んと思へ甚数書りべく世ふ四方に挙る
一 高敷屋敷入京町く能り人の母獄更ハ歎多の戦宮殿
家民我敷ふの仁情の累よりて歎書べ依之立ち所ハ屋へ能入の
分ハ甚人の修繕の所へ紀一小屋限り能入ら甚少多の所へ紀
世書中ふ所く潰崩破損等の諸多し是皆甚所の破損の大小
我分ハ為めして崩ら形状潰ハ焼失の如くと知るべ

標目

一 日本橋南方京橋之東西町〻
二 南伝馬町二丁目巳方長〻屋
三 同寺地〻男女堅家〻〻屋
四 地震〻怪家之ゝ〻〻る屋
五 鎮祭人水〻〻〻〻る屋
六 大川端南北新堀新橋永代之
七 永代橋東方深川一条
八 図仲丁繁乱〻屋
九 加倉木場より寺町〻〻
十 伊勢橋丁東方閻橋大橋之一条
十一 新大橋東方中小路〻〻
十二 南北東下丁より高橋〻〻
十三 同東方橋江戸〻〻武家町家
十四 東方天祢川堤より江戸一筋〻〻
十五 回向院鐵冠〻屋 川口柳
十六 小名木川筋西〻武家町家
十七 東西徳右衛門丁目所〻
十八 同相生丁焼失所
十九 同東方花丁焼失所
二十 東新石原通武家町家
二十一 同西中〻町石原通西〻
二十二 同蔵并町通焼失所
二十三 同北割下水通所〻
二十四 東西又同通焼失所
二十五 亀戸天祢川筋より法恵寺まで
二十六 小梅より出村丁通所〻
二十七 千住小塚原焼失所

中之巻

二十 右原郭中衣紋坂まで
村山隠亡堀 新流〻屋

右原焼失〻〻 居家絶孔〻〻居絶
拝女賀茂別雷猴焼失一条
右原孫流寄侯〻〻
同日幸提田所焼失場而
浅草橋詰の色民家
同今戸より表浅草の色
同馬道通寺院所家
同猿若所一条焼失
浅草寺門前より茅戸丁色
同新吉原内〻焼失
色脇〻橋内焼失
浅草新寺所色所〻
下谷山崎丁武家所家
上野山内より廣小路色
所成道より西〻方所〻

覺泉院下女宿〻〻
池〻端中所色所〻
根津社門前所〻
下谷坂本色武家所家
幸卿色新宅所色の居
同 〻〻 〻〻 〻〻寺侯
小石川水道橋外所〻
同牛天神色武家所家

下之巻

四ツ谷御門内〻居
市ヶ谷御門〻〻居
新シ橋より築屋丁色
石川大和の居
宗井丁焼失壬色所
芝神明前〻居

四九　仙蓋寺　仁寺
四十　鉄砲鍛冶　矢崎
四十一　幸橋門内　武家方
四十二　日比谷門内　同所
四十三　護持院原より小川丁一条
四十四　同北方小石川御門内西
四十五　荒布橋より西へ大名屋敷
四十六　八代洲河岸大名小路
四十七　馬場　茶屋　番
四十八　和田倉門内　西
四十九　大手茶屋　鍛冶
五十　地蔵　浅草　孔子廟

右通計四十六章　画図武十八条　鉄砲鍛冶所名
其地名の詳なり三巻総標目畢

△日本橋の南方中橋より表側彼橋　一勇齋國芳
かゝ一日本西方角河岸の景　どうぐや
檜物丁上槙丁南槙丁桶丁辺彼橋　國芳
日本方日本橋丁小松丁
瀬戸丁瀬戸丁新堀丁
大鋸丁松川丁本材木丁六丁目より中家新堀丁
漬物丁　一作一古の内結切人
一白米丁　一作一十丁中ハ又橋名者上弁
一鉄砲丁　一作一町名全部
一海村　橋左海
一水菓子　水菓子渡世
年寄菓子　年寄菓子
年寄菓子
次郎菓子
表菓子
仁寺菓子
八人

天地の変につれても人情もまた変るならひなるに
此度大地震の後再び大震あらんことを懼れ丈夫に
仮庵をつくりそれに住居なすに囲ひなどを渡して
秋天智帝の御製の如くかりほの庵の苫をあらみにて
秋露をもり透間の風もて人を犯し病難がち
大空の星を見る常ならぬものまでに一夜も寝の
めぐりけるを諸人よろこび本宅の居につきしより
崩れ傾きたる中二階家などの中に物置にて
雑もくそれに入て寝る者一人もなく幼子に
つかくせて泣いさつてあやうきこらも同じも座頭に
泣ても置きて庵に置きて本宅へ持ちかへり寐
るものあそくらいで怖ろれて泣止めかね
実に地震の怖ろしき初めは老人婦
の常に変りし事を見て世のへし宗ハ所にて病
つくらぬ所もあれど道のおそれ気やうにて
ようそ寝られぬといへりとぞ

一たる人大震の後度々の動揺大小を量りて記し小
作らしめし甚有ゆう通俗小微ひて日の出日の没
を以て昼夜とす即ち白点ハ昼黒点ハ夜と知るべし
且初震の揺ハ殊に大きく書べきを紙上の不見
しけれバさらに略を

十月二日 ●時四 ●過四 ●半九 ●片八 ●半八 ●片七 ●過七 ●同 ●半七 ●同
三日 ○片九 ○片七 ●片五 ●片四 ●片八

四日 ○半八 ○過七 ●半九 ●過半九 ●過八
五日 ○片六 ○片八 ●半六 ●片九 ●半九 ●過八 ●片七 ●過七
六日 ○片六 ○片四

○片七 ●片九 ●片八 ●半七
七日 ○片四 ○片七 ●過六 ●過五 ●過九
八日 ○半七 ●過六 ●半九 ●過七
九日 ○片五 ●過四

○過七
十日 ○過六 ●過六
十一日 ○片八 ●過四 ●半九
十二日 ○半八
十三日 ○過半五 ●過四

○半八 ●過四 ●片八
十四日 ○過四 ●半五 ●片七
十五日 ○過七 ●片七
十六日 ○片六 ○過八 ●片四 ●片九
十七日

十八日 ●過九 今夜雷雨
十九日 ●過六 ●片四
廿日 ●過半八

廿一日 ○片六 ○片五
廿二日 ○半五
廿三日 無
廿四日 ●半五
廿五日

廿六日 ○過七 ●過八
廿七日 ○過九
廿八日 ●片四
廿九日 晦日ナリ ●片九

十月總計八十度 晝二十八度 夜五十二度也 以下畧之

一 銭弐千五百貫文　五十両之銭(?)　佐内丁　鶴松後見　吉村兼助

一 銭千五百貫文　右同断　青物丁　居酒渡世　濱波屋久兵衛

一 白米五拾俵　魚河岸町内　万丁　谷口熊五郎

◯一 南伝馬丁弐丁目(?)より五郎兵衛町(?)大根河岸(?)大鋸町(?)具足丁炭丁因幡丁柳丁松本丁八丁堀河岸(?)焼る右之町々土蔵一ヶ所も残らず焼ぬ

△海賊橋坂本丁牧野様上屋敷細川様中屋敷(?)破損九鬼様上屋敷表側両ヶ所大破損

細川様中屋敷(?)御代地屋敷あり越中様(?)上屋敷大破損河岸の土蔵五ヶ所(?)

不残焼松平(?)越前(?)様御代地破損屋敷(?)也八丁堀(?)河岸(?)を

松平(?)石坂(?)破損今六丁目(?)同北岩丁(?)の辺大破損屋敷(?)家五丁目より破損(?)

屋敷破損屋敷(?)同年十月八日(?)松本(?)岩丁より出火(?)南方水谷丁(?)同上(?)本丁(?)

鍋丁銀丁(?)八丁堀(?)茅場町(?)焼失辺(?)火のごとし△同北茅場丁(?)薬師(?)

横山(?)王社境内(?)石垣(?)居(?)大破損同所(?)茅場丁大破損半丁余焼(?)

東は日本橋河岸を始め大破損

一 柳の戸(?)両国橋は万治二年初て武蔵の境より下総へ渡せし故(?)長サ

九十六間橋上の群集常に絶る事なし当(?)年安政二卯年十月廿二日(?)

の地震(?)にゆるぎ(?)通路(?)安政二卯年十二月廿二日流に修造の功成(?)

老若男女(?)相続の老夫婦(?)あひ渡り初の渡りに命ぜらる実にも目出たき

なかなかにめでたき(?)

何よりの嘉き千歳の(?)

鶴よりも亀の橋(?)

よろこびしく(?)

茅場丁　老人　小西孫兵衛(?)　八十三才

同人妻　六十八才

同人悴　熊五郎(?)　四十三才(?)

同人妻　四十才(?)

同人孫　之助(?)　廿才(?)

同人妻　廿二才(?)

南茅場丁　石橋孫兵衛(?)

一 銭弐千五百貫文　五十両之銭(?)相入(?)

△靈岸島川口丁(?)大(?)富丁(?)茅場丁(?)南新堀丁(?)大破損東湊丁(?)銀(?)お(?)横(?)大破損

同所(?)銭(?)お(?)堀(?)漬(?)屋敷(?)あり

一金壱朱ト白米壱升ツヽ　長五丁内　美濃屋　北原喜兵衛

一金壱分ツヽ　長五丁八ケ町壱軒分　同肩書下　藤　屋　氏

(二)　同所南新川一丁目中程分同二丁目堀端丁郡丁大川端丁まで焼る

△同中方小新路第橋丁久世橋中中程伊豆橋古丹橋中中程大彼橋

田安橋彼橋ハつゝ湯屋洗同西河岸新多く焼る

一白米壱升ツヽ　長西町中一軒分外ハ大半の焼残り　同　伊坂氏

一金　壱朱ツヽ　同　同　小新堀　長谷屋

一同　同　同　同西　小村氏

一白米五升ツヽ　同　同　同西　後藤氏

一金ハ拾一匁ハ分　同　同　同西　富久助

(三)　永代橋東方ハ長谷邑同新堀組中程大彼橋同南方相川丁東

戸際ハ新橋東方相川丁西側ハ焼る仲一軒東方佐賀丁古田橋中や

壱丁地所ハ歩南方鶴井丁二丁目西去ル焼留壱丁ハ拾丁ハ丁目西

西金ハ焼仲丁西ハ一番居焼残永代橋西ハ丁ハ丁ハ東丁西橋丁永代

ち東ハ丁二丁焼八幡社ハ丁ハ丁ハ山ル

△冨賀八幡社金天神彼橋神ル舎洗ハ裏庫大彼橋橋ル裏洗大番居

焼残ル神楽ハ手神冨西ハ大彼橋△社内ハ殿小屋迄

一　織七百五拾貫文　源川本陽　桜本南仲　寄代高小家　船入　同下長半院　同下ハ丁　仁兵衛

一　織六拾貫文　右同断　本陽　家屋和助

一　金五百七拾ハ匁一分　長ハ丁内平打続人ハ焼　右　同　人

一　金壱分ツヽ　河岸船ハ外ハ金二匁ツヽ　三丁人　右　同　人

此外　金　かくハ　寄物ハ無之

一　金弐百拾ハ匁弐分　かくハ丁内人金二匁ツヽ又白米　同西　佐賀丁　又右衛門

一　金弐百ハ拾匁　同　佐賀丁　徳九郎

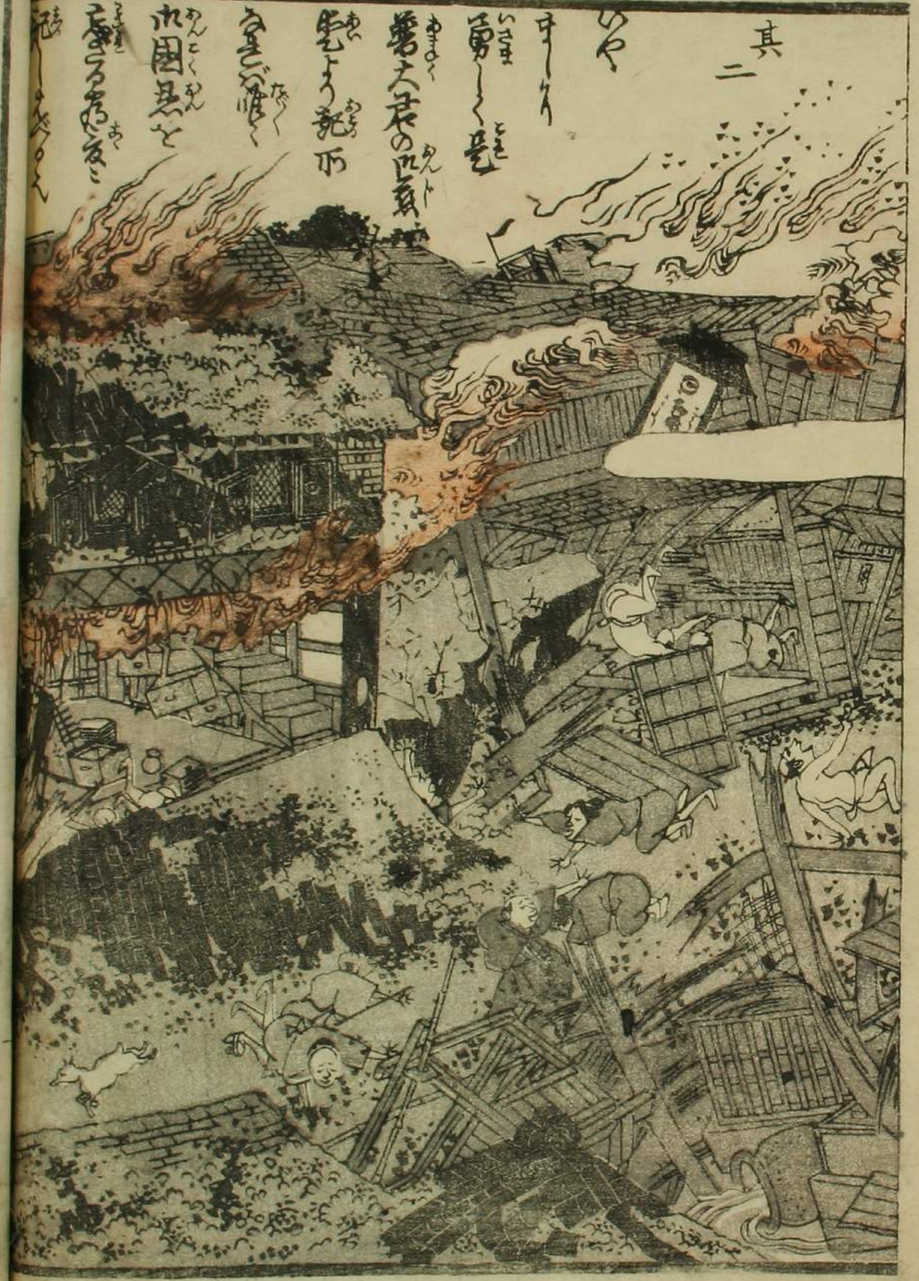
一金百四拾七匁二分　日ゟ
一日百四拾弐匁二分
一日百七拾四匁弐分　内ニ丁内ハ一分ヅヽ　日ゟ
一日弐拾壱匁弐分　内ニ生来四年ニ成ル年ニ成ル年ニ成ル二分　日ゟ
一日九拾四匁弐分　日ゟ
一日三拾五匁弐分　日ゟ
一日三拾四匁　日ゟ
一日三拾弐匁　日ゟ
一日三拾壱匁二分　日ゟ
一日壱分ト壱朱一ヱ　日ゟ
一日壱分ト弐百文ヅヽ　日ゟ
一日壱分ヅヽ　此人数ハ内ニ七日の召味噌清人ト数

日本橋　長谷川
日伝馬丁　森　助
日小門丁　をかの屋　森右衛門
日伝馬丁　勇三郎
日本橋　江戸長谷川
日伝馬丁　恵　助
日久永丁目　丸屋
日永代ゟ　七郎兵
日伝馬丁　清兵衛
日西　川村氏
日お門丁　東
日伝馬丁　乳熊

其一

[illegible]人とも
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]人の
助出して
困民を救
[illegible]

其二



△同所南方阿部橋中中ノ丸戸田家ノ屋敷ハ大変ニ△同所ニ捨ノ二間堂橋ノ中ノ丸ノ裏ノ方ハ亀ノ淵ヘ七分焼ケ外大変ハ△同所本郷ノ内ハ方武家町家共ニ焼ケ

四 同所和泉橋ノ下代地ノ内石原代地丁平地ノ下流ハ焼ル日ハ西方八丁永堀丁万年丁ニ出ル焼ル橋ハ冨岡橋ノ方陽無流法禅流ノ行流海福寺増林寺恵然寺ニ出ル焼ル

△同所南方海辺橋中中死戸田屋茂兵衛橋下中安人被
死大変(色)△同所二拾二間堂橋の中ニ焼死男口婦尾形後(七分)焼中外
大変被△同所本郷ヶ丘四方武家町屋敷焼家潰家多く悪く紀〜〜〜

(四)同所赤坂御門代地本所代地丁家中ハ丁家中ハ丁海辺ハ焼る同所南方今川丁
永坂丁万年丁ハ光寺橋西方潰る冨岡橋ハ方陽無流法輝流ハ行流
海福寺増林寺恵然寺ハ光寺等大変被ハ四方武家町家ハ潰ル家
多多〜〜△海辺大工新丁ハ数小屋焼

一織百ハ拾ハ貫文　内ハ焼入
一同八百文ツヽ外ニ米二拾俵
一沼藩二杯生姜一杯　薩一杯　梅干ハ杯
一味噌　ハ樽

市ヶ谷ハ市ヶ谷ハ八ツ人ハ焼所ハ〜〜同ハ紀ス

日本橋　万屋和助
本所　菓
下谷岡崎町　西横町　七郎兵衛
中仙道　大宮橋　新三郎

△同じ所西浄山寺壱つ中つ潰し門壱つ番屋石倒し残る壱つ及ぶ
会津屋敷表外破損本蔵祖師堂壱宇△同西夏岸寺壱つ及幡中慈徳
寺外大破損同西方祥寺壱宇潰る壱つ光る宝雲寺本大破損右之内法
寺院鐘楼碑等悪例と残る壱宇〜

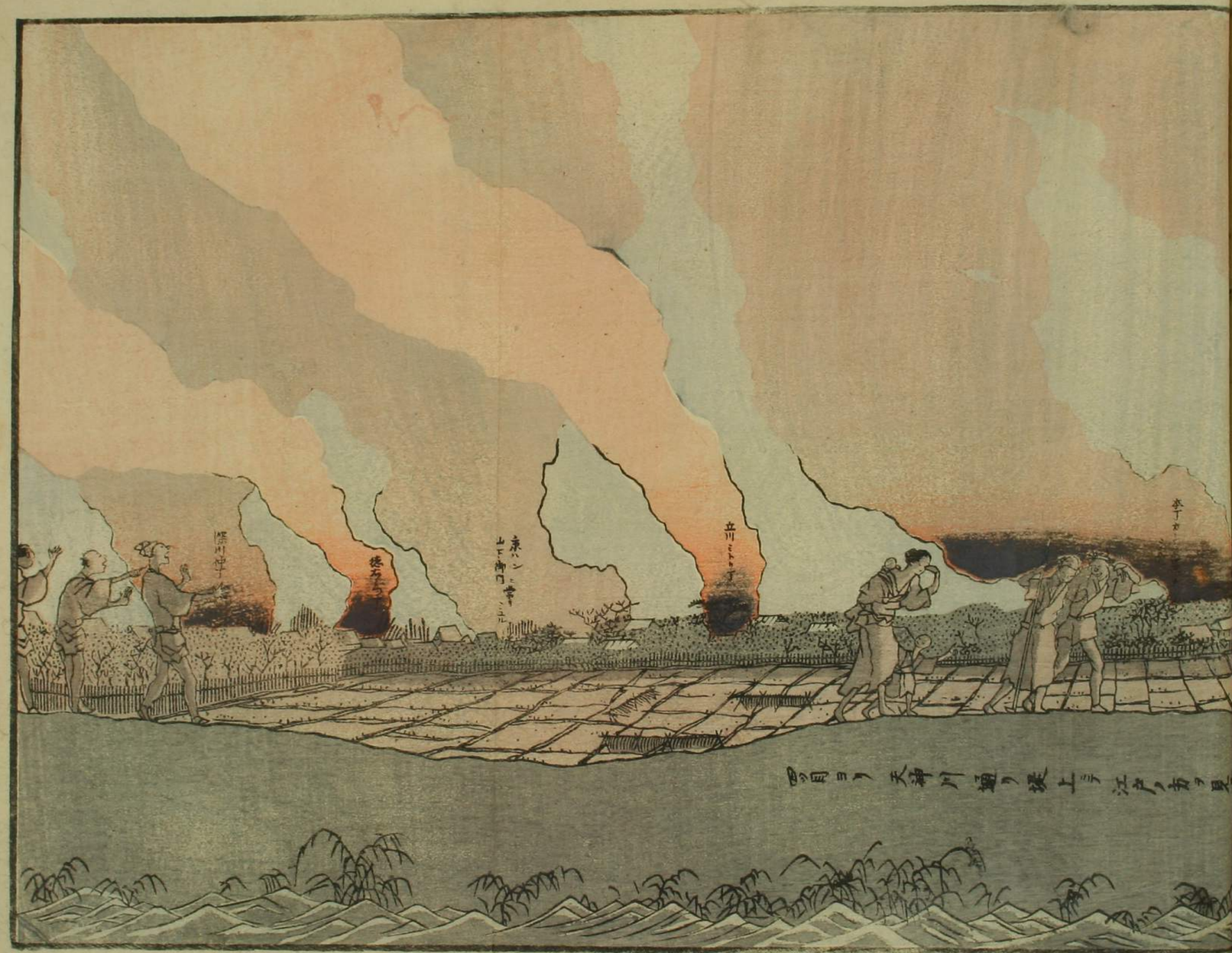
五 同西伊勢崎丁壱丁目二丁目焼る
△同東方洲崎弁天社壱宇流内稲荷壱宇番屋破損△東方評細川損
下屋敷小笠原損下中屋敷損中林損中屋敷潰山損中中屋
出羽損中中屋同北方石塔丁一橋損下中屋敷本多損下屋敷本多
伊勢損中中屋敷損下屋敷西田用備損下中屋敷北側方小屋敷民
家若大破損為敷〜同西八丁堀新田民家多く潰る同砂村長谷
大塚迷井元八幡小名木川筋まぐの内潰る家多〜△同東方一ノ江
村八十六軒潰る右本法じて知るべし〜

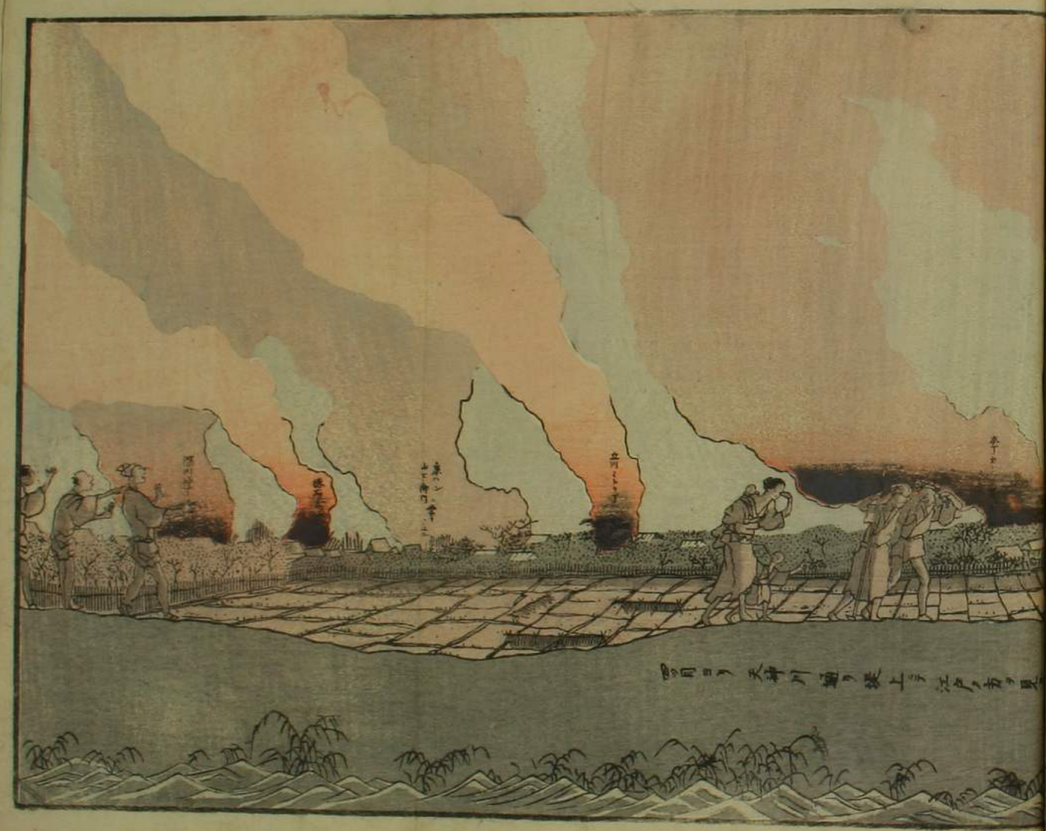
△仙台藩候の家中壱人生勢之幸西辺の屋敷水住を絶る水十月二月
の初旬分壱のあり重役喜水田今新井の水濁り汐入れ
大地震の兆多り新堀処の家物山潰し地震の音雷ハ軒水多り
かず〜山用心人とりつ水重役家水朝矢く波荒物流し〜なるゆへ
見を文元かへり猶又日役を外へ大地震のあるんと恐れる物も笑て
仙条その業あるべ見るどりつく元教おそ夜果〜て大地震を重役
の土船ハ揺潰〜おそ公船中を物矢る人和る多り幸水〜て大変を
逃れ者大難あるべ一物も残ゆる〜嗚呼危うみ〜

亀井戸住玉蘭齋今度の怪変と巡を同西天神川の慌よう江戸の
方とゆる水四方を通水史実記り宗金危等の崩る者の再震動
生ると名を伝人安さ為るあ記伴と為る伝写真せ〜と文水出を

△本所永倉町篠崎某なる人性漁を好み十月二日の夜も又手やといふものにて鰻をとらんと
河筋をさまよひあるくに切に鰻籠一つも得ず唯鯰三尾をえて傍なる鯰の騒ぐ
時は必地震ありといふに心付て漁を止帰宅して速に是を家族に見せ具を出して
異変の備をなせり其妻は不審に思ひ笑ひけるに其夜右地震ありて住居は悉く潰れき
然れ共諸器物は更に損ぜず備ふ日夜近邑の人々漁にて鯰の騒ぐをしらざりしは揺崩し深く悔みし
帰宅もせざりし人は家財も中古家居より家財も其儘に失ひ
右篠崎氏は其心さとく一つの難を逃れたるの是全世俗の俗説といふ共然れ共能に付ては
一条の沙汰にて油断せし人の為めにも是等は自然の道理にて
地は変動あらん時は且鯰の騒ぐあらん世間にも地震を鯰といふも愚にも
あらん何も其等の説をえて後世の鑑ともならんと云人ありけるを

△本所中の江弁天小路に八百屋新助といふものあり右地震にて手の余浅草新助の方も潰て
が三人の子と潰されし其妻も二人は梁下に閉込られ自由ならざる狂気のごとくなりて
板材木を取除んとするも力弱く新五郎より出火して次第に火勢強く家へ迫の
おそろしさ妻やさらに云ふ妾を救んとて助らば身を捨て二人の子を危し妾は見捨
あり亦其火を見て我の最期なりといふに新助心付ずして天を仰ぎ
示て云ふ天災なれば誰を恨んとて頼しく二人の子を救よく書置をきておく
然れば必ず助けるまじきといふに水粉を恩べし既に経営とて成佛せよと云捨て立退
すり其夜子の刻尋来あり髪は乱くく焼尽し
焼爛たる容は実に憐むべし新助委細を問に妻がいふ火は既に燃来て梁
つまを焼しも人押付るに甚悩し漸く火中を逃なると思ひぬ是等は未命運のつきざる
処にして最もあはれ今度の騒乱に此外逃来る又は井中に落入火災を遁
れたる者の外に種々の説あれども物語に似たる事なれば其一二を挙のみ

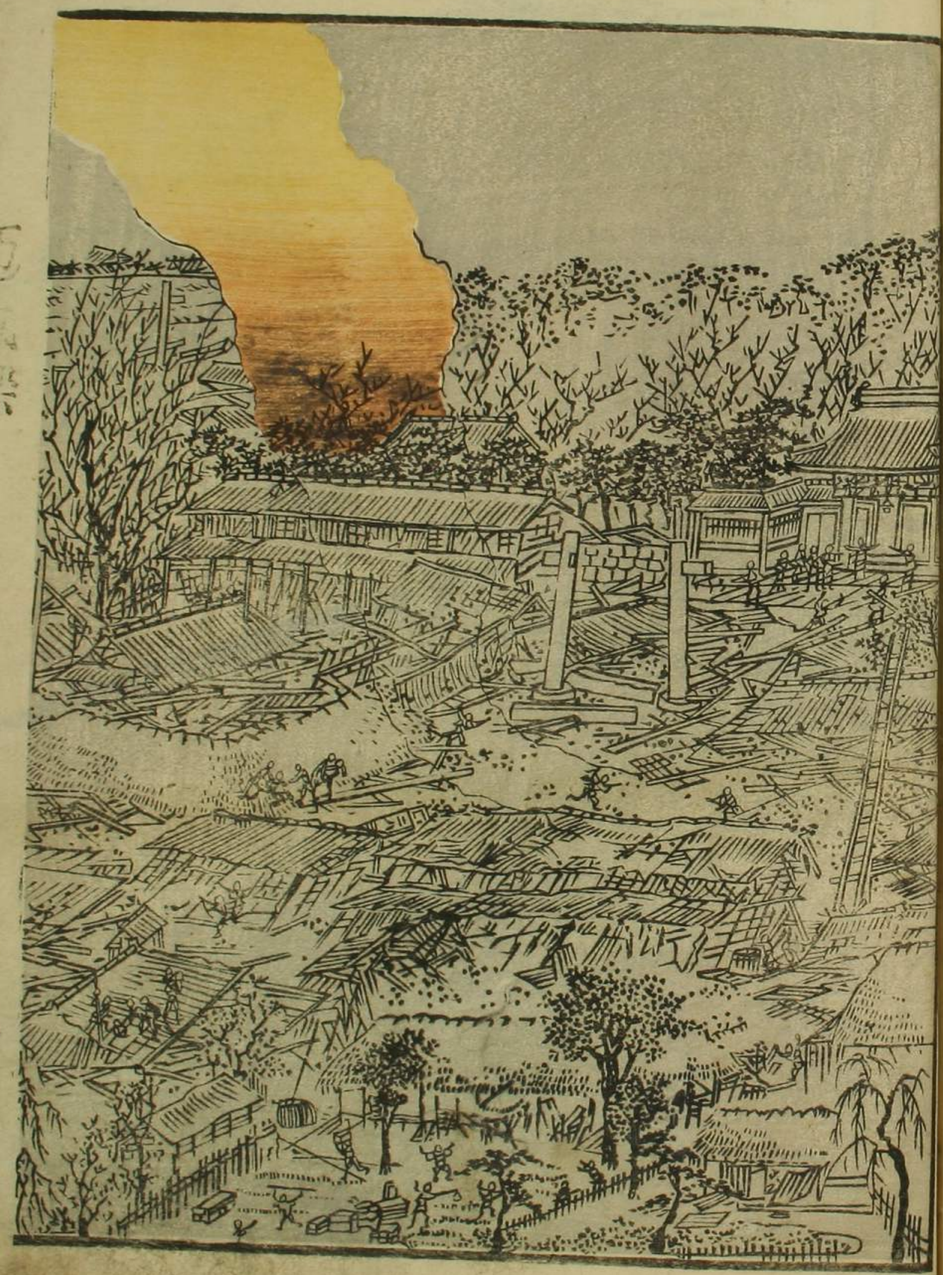

深川伊予
徳左ヱ門
東ハン山下御門ヨリ
立川ミトヲ
本丁ヨリ



△深川富士見橋の二の組屋敷人足寄場所といふものあり右地震にて長家潰れ妻子およ
殺されしものも傳に怪我もあり亦は濃に物音きく出し各々寄場を被り免れ紙に正に
小笠原左京殿の屋敷の玄関も潰れ銀中お手く崩潰其中に法頼も切にも出火へ一名刀に任
奈木枝為當もあり殿侍廿九人を殺出し焼失土蔵の中より廿十二人を出し夫ゞ老母も亡母も迷
妙円院及び城主の御母公をも救ひ出しとの事に右寄場所へ殺て以て其濃家の中へ潜入込蔵を尋出し救
出し侍廿余傳せ玄関に安座し給ふ其中より大夫三ヶ所の火を消又十二人を救出せ
供し此中男人所兆え此時れと隣より遊馬剣術しれ著名れを望みし中も右寄奉行に
救されし由此後退しく五日九日と隣より寄場所に出し在て当地の此節全て出役ならし家代
十五人被持ちて作事方又役作行きまた更に此度の非常に一統の難儀中して継
利益の為めに又右の寄場所等へ此志にて不残取計して給ふ其の利あるにて此度の
其の度に三ヶ所より大邸ていふ災害あれん自分至して寄のみ不義報あり悪しき
幽艱あり天地の照覧明らかなる人間の浮沈は皆其人の心中にありといへし

△扇橋より東にて伊賀様下中やしき秋元様中やしき深坂様下やしき永井様中やしき
越後様下屋敷大久田様下中やしき此辺武家町家ともおほく悉く紀く
△上橋通りて仙台様中やしき久世様中屋敷木又町家大破様河岸の石垣等
崩ざる所なし同所牧野様中やしき秋田様杉本様本多日向様にて大破様
△同小名木万年橋通り大破にて崩れ多し同本所一ツ目橋石垣等も皆のうち
崩壊しと成△同所弁天社大破其外諸稗ホ悪崩る
㈥新大橋東方御舟蔵並に同所町より出火同所の舟役やしき八幡諸一所同所添
丁本寺も焼ける同所南方要津寺ホ屋敷残らず焼失め六間堀丁三丁八名川丁二丁
同所代木観六ホ残一ケ所法楽神社大の中にて焼る屋敷残らず焼失甚悉崩る
㈦同所川向東方小名木丁二丁焼同所長慶寺にて此ちる南方小六間堀丁南
六間堀丁四丁目森下丁神明宮大の中にて焼る同所小笠原佐渡様下中やしき
井上河内様下中やしける深川元丁常盤丁二丁目同所本田摂津様やしき東方

今度の地震ふて
模先の人民ども
天災といひ
不快ふ思ふ
十二月二日より在の寺院
ふたひて
天台 東叡山寺頭
浅草寺院
浄土 本所 田向院
古義真言 芝二本榎
高野山学侶方在番 西南院
同 麻布白根屋町
同 紀州人方在番 永満院
新義真言 浅草 御蔵前 大猷院
浜家 品川 東海寺
曹洞 市谷下 青松寺
英源 本郷五丁目 経漢寺
法華 宗 下谷 宗延寺
同 浅草 慶印寺
西本願寺 越後 長楽寺
浅草 浅草 長楽寺
時宗 浅草 日蓮寺院代 洞雲院
諸行無常
是生滅法
生滅滅已
寂滅為楽



十九

之形丁南方ニ橋ヲ渡ル此ヲ大破大小為ニ焼ル日おん

八 日東方源川西丁焼ル此ヲ武家町家とも大小ハ為ル

九 日少方徳ヲ丁二丁焼ル此ヲ武家町家ヲ日ハ日西河岸ヲ延巻く為ル

△本所南ハ回流本堂八方年新橋ヲ出ル堂塔崇洗ヲ猶裡側ハ家ヲ外

燈房ハ大破横ハ東方少方武家町家ヲ大破横為ル甚多〳〵

十 日東方相生町ハ丁目ヲ又丁目緑町一丁目武丁目ヲ焼ル日新河岸

石垣為日少方津煙横中ヤ〳〵ヲ此ヲ内小伝馬大破横為ル多〳〵日東方松平

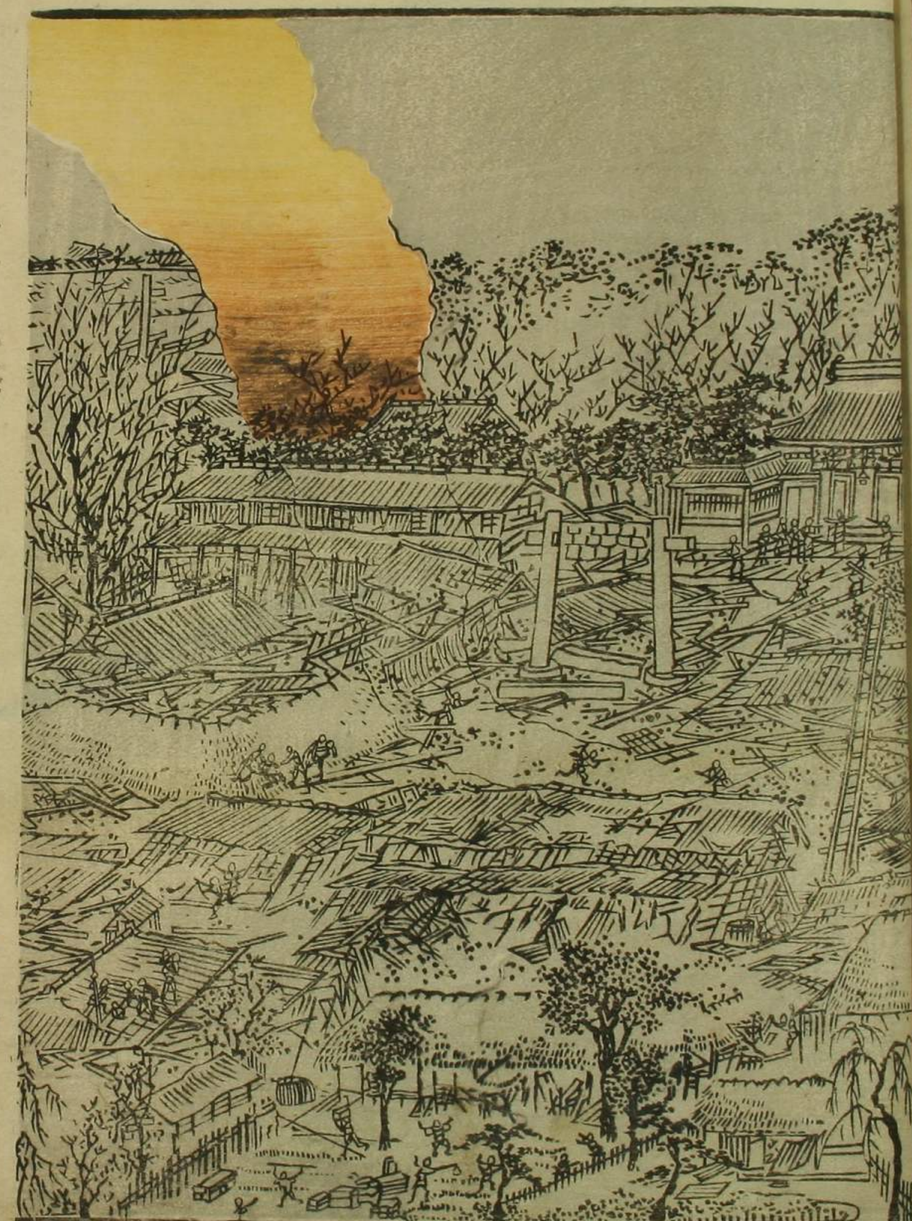
筑後横下中ヲ永倉丁入口丁ヲ焼丁ヲ武家町家ヲ大破横為ル多〳〵

十一 日東方緑町一丁目武丁目焼ル之丁目ハ三丁目又丁目花町ヲ焼ル日

少方松平能登横下中ヲ桜村芳力横少方武家町家大破横ル為ル多〳〵

十二 小本所石原牛ヲ新旗所長ヲ大小為一丁余ヲ焼ル△此ヲ武家町家ヲ大破

横為ル数ヲ悉紀〳〵



十九

筑後橋下中紀永倉丁八百丁七軒丁之武家所家方大破数箇所多し

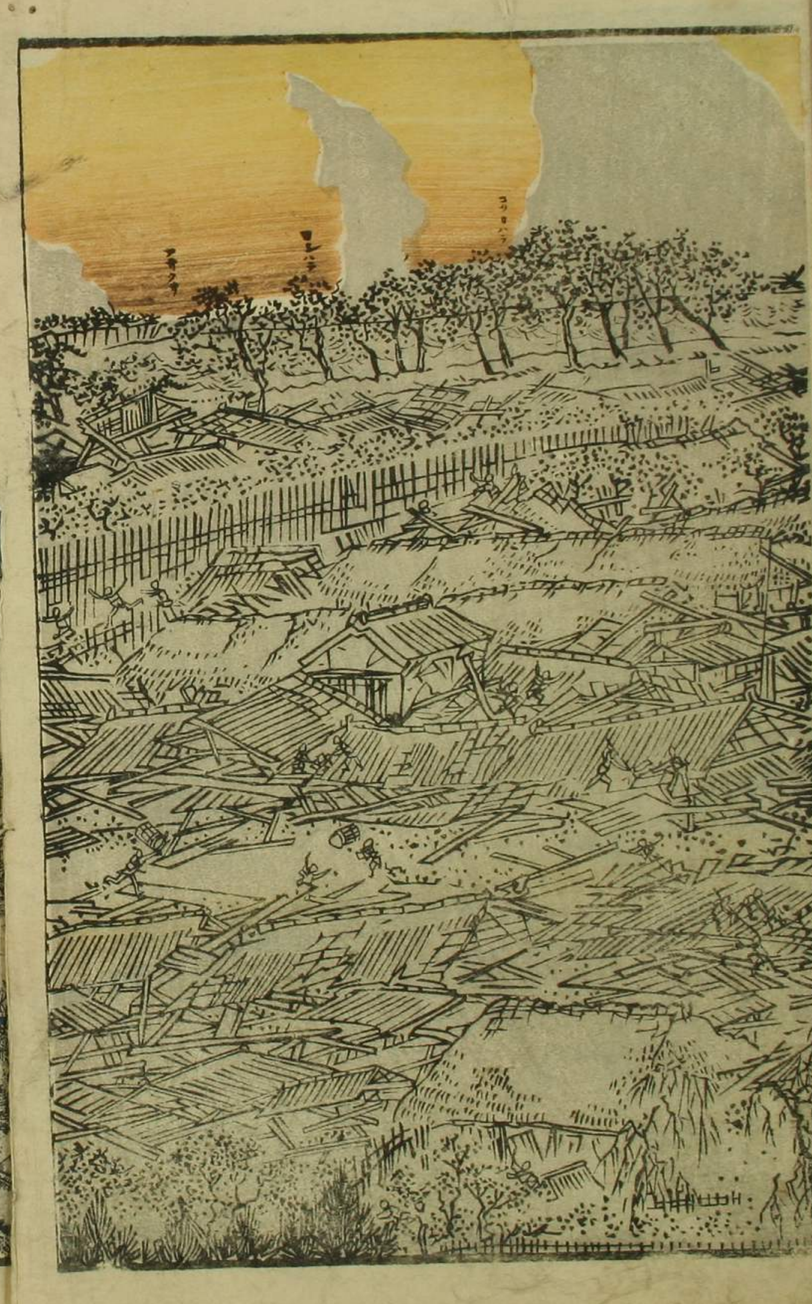
(十)月東方緑所一丁目武丁目焼る三丁目鉄砲丁五丁目花町まで焼る同

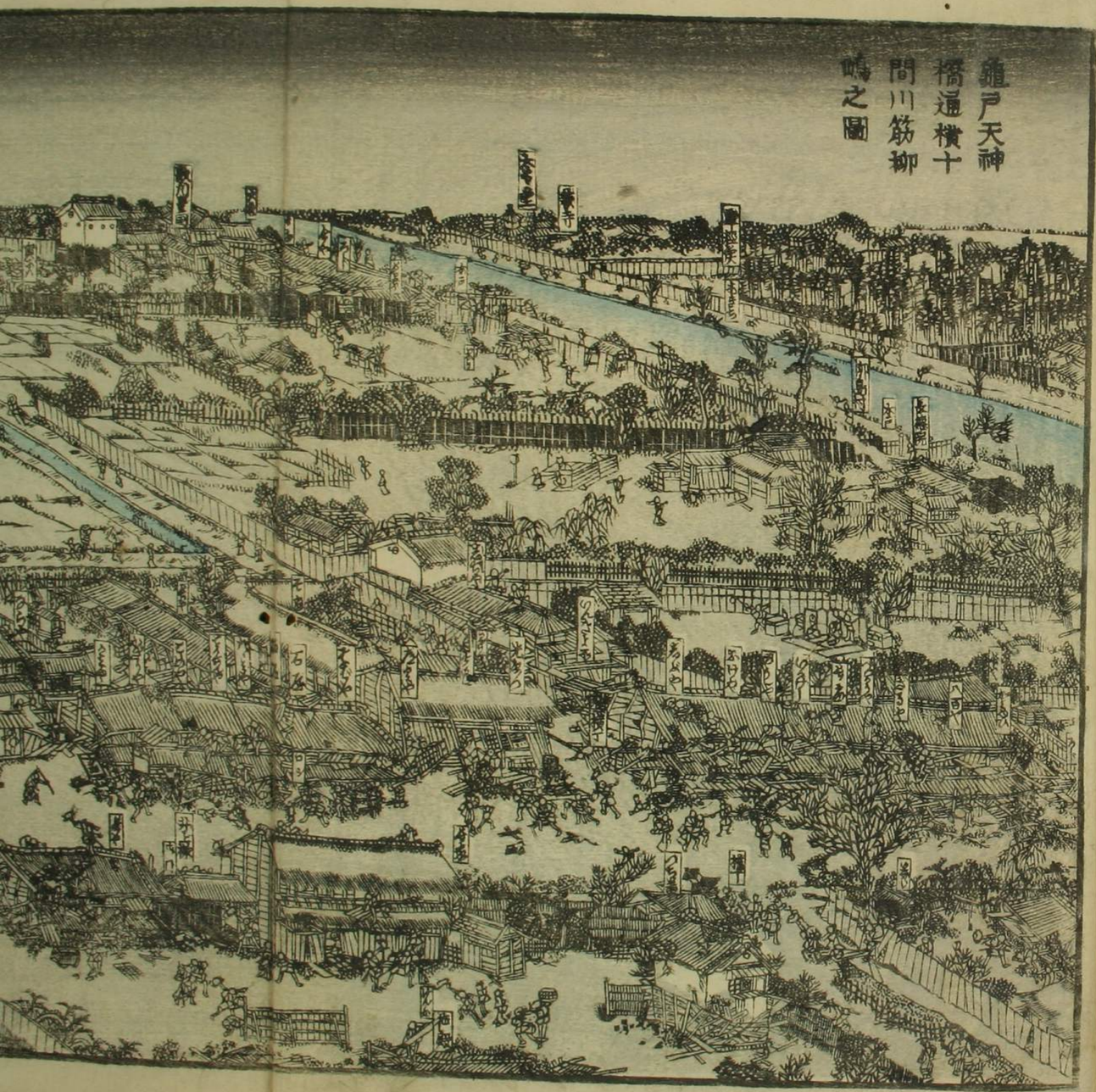
北方松平能登橋下中紀桜村第乃橋北方武家所家大破橋所〻焼家多し

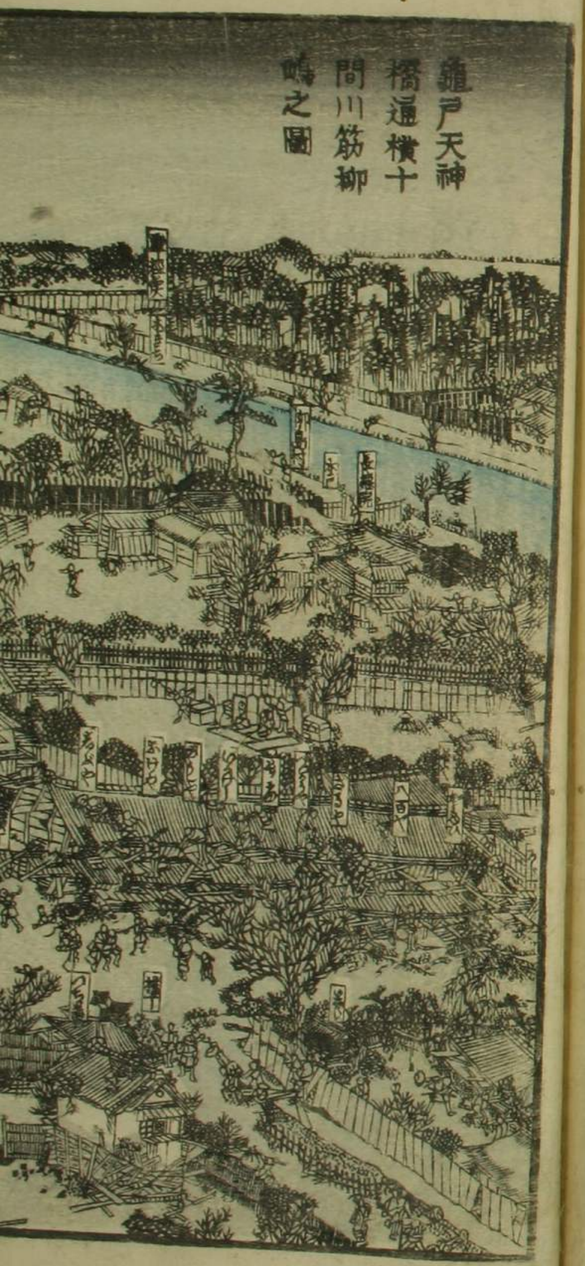
(十一)北東西石原牛込新旅所矢来北方一丁余中ける△武家所家方大破

橋焼家数ケ所悪紀〻〻

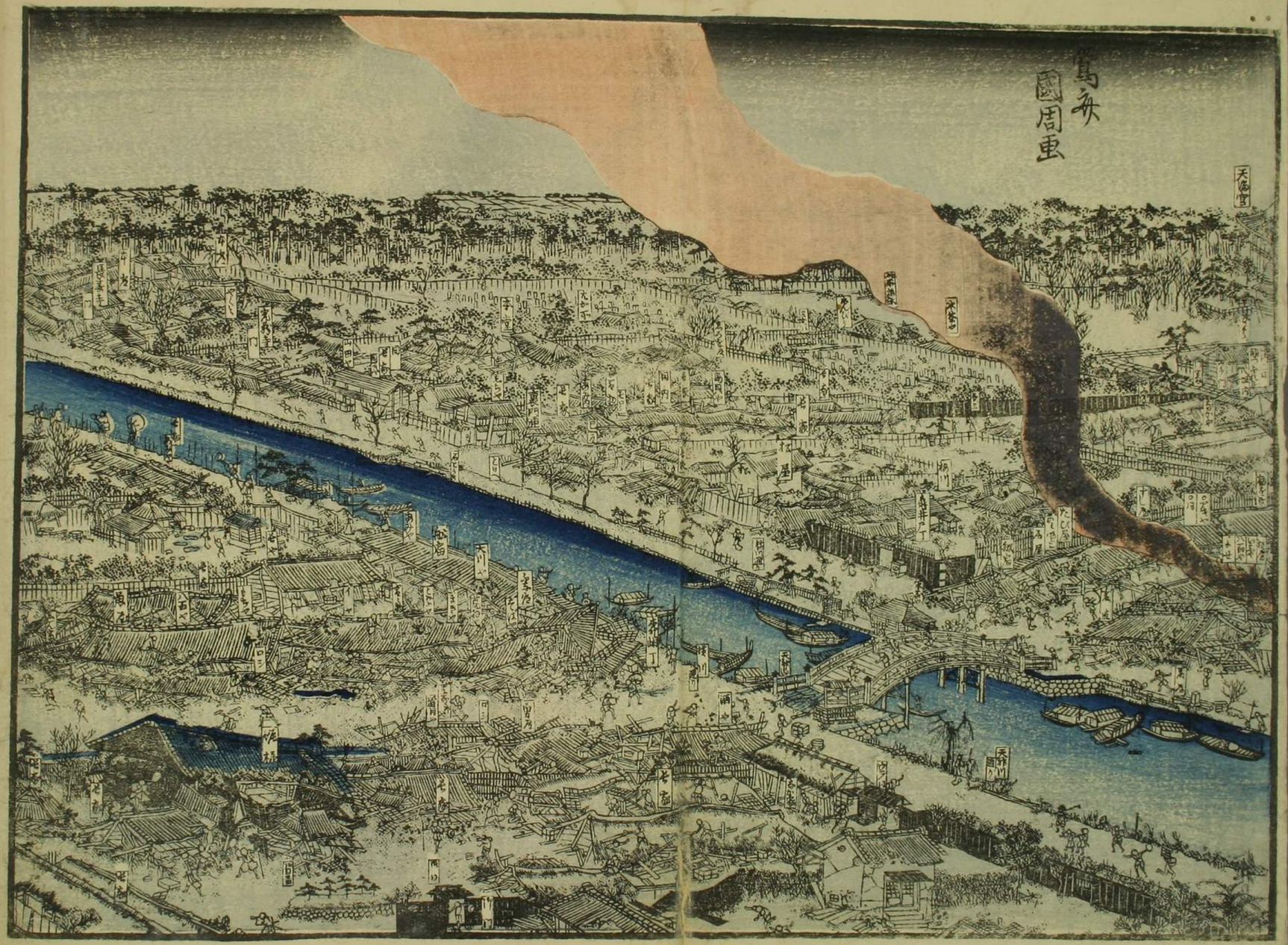
龍戸天神



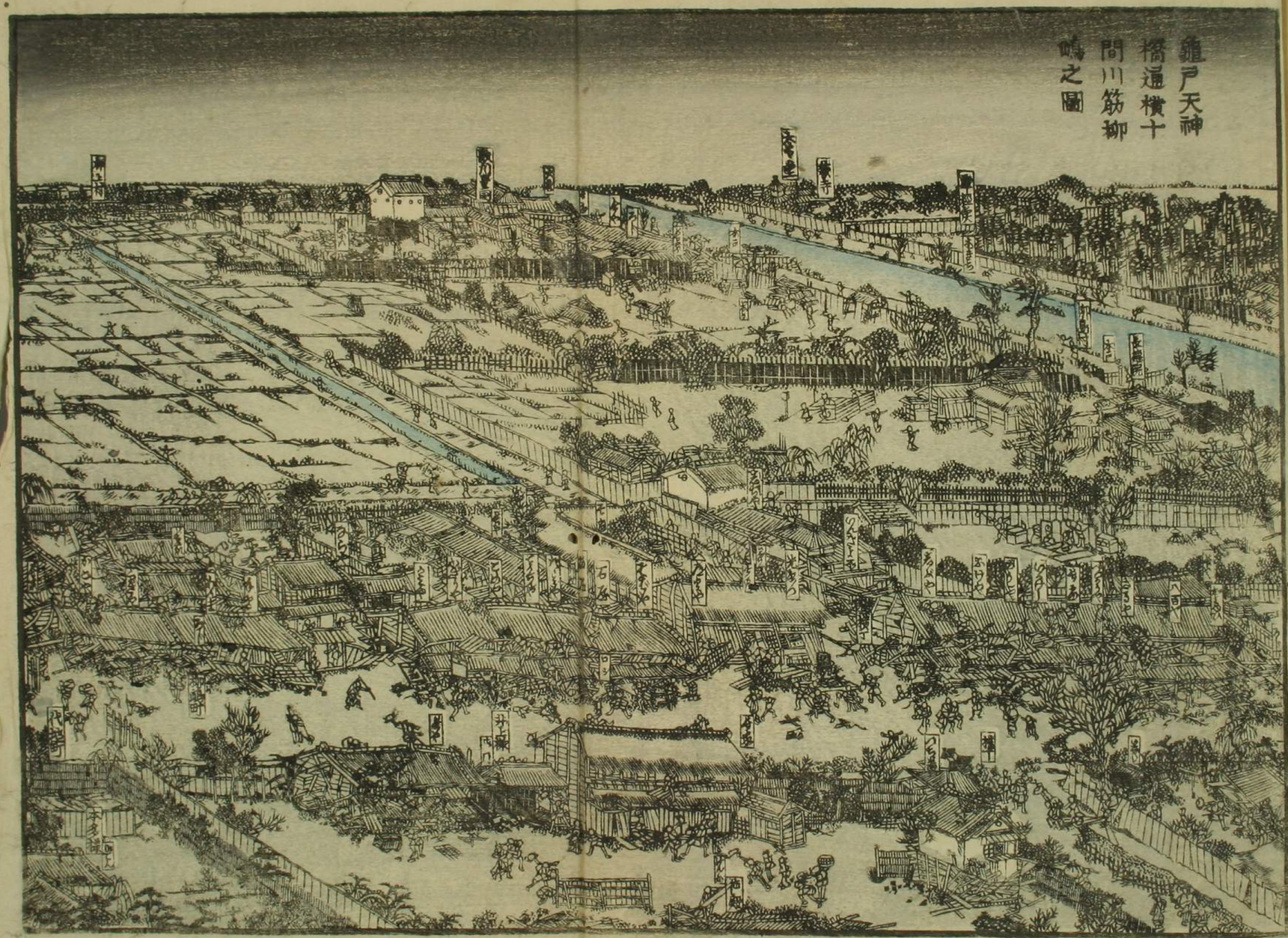

龜戸天神
橋通横十
間川筋柳
嶋之圖



龜戸天神
橋通横十
間川筋柳
嶋之圖



寫真
國周画


龜戸天神
橋通横十
間川筋柳
嶋之圖

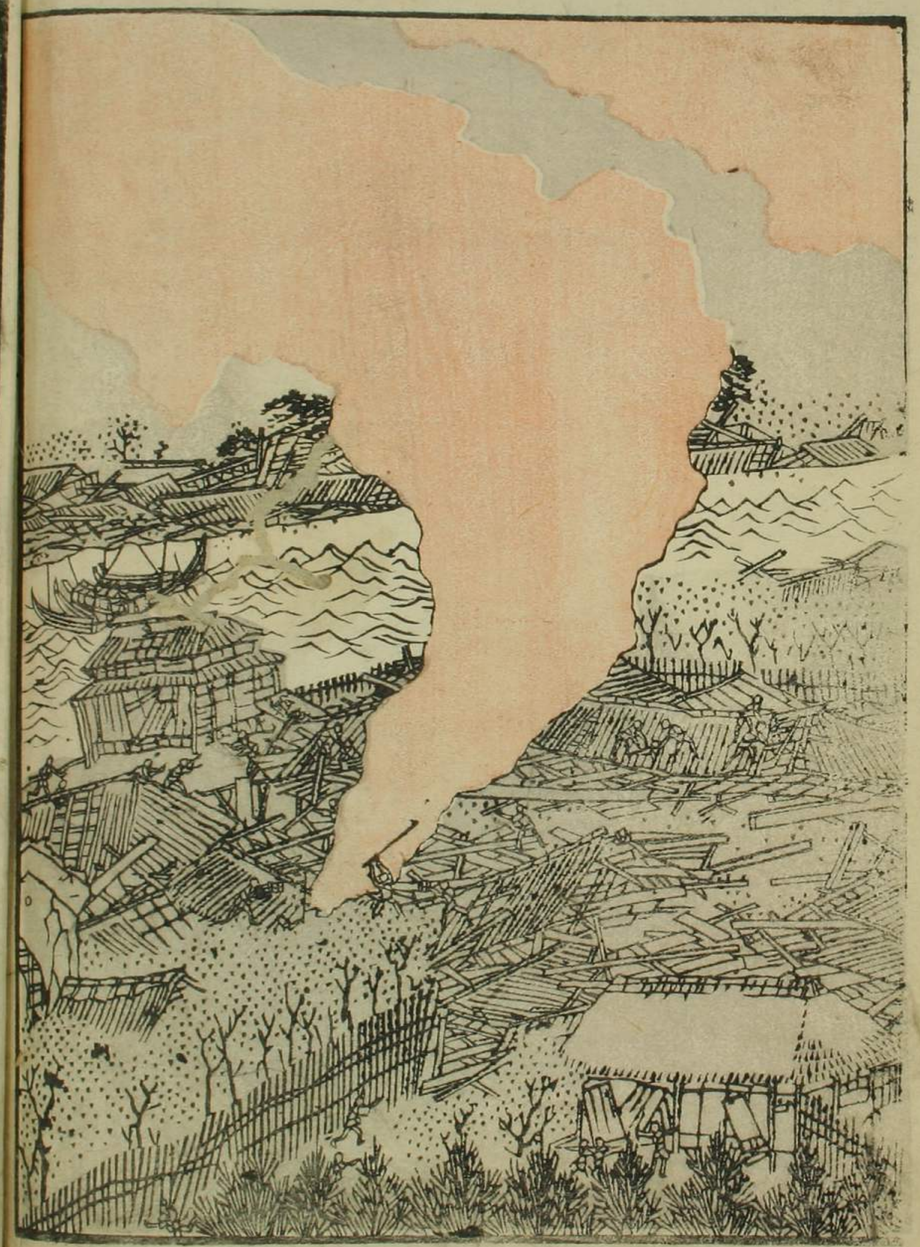
亀戸天神
橋通横十
間川筋柳
嶋之圖

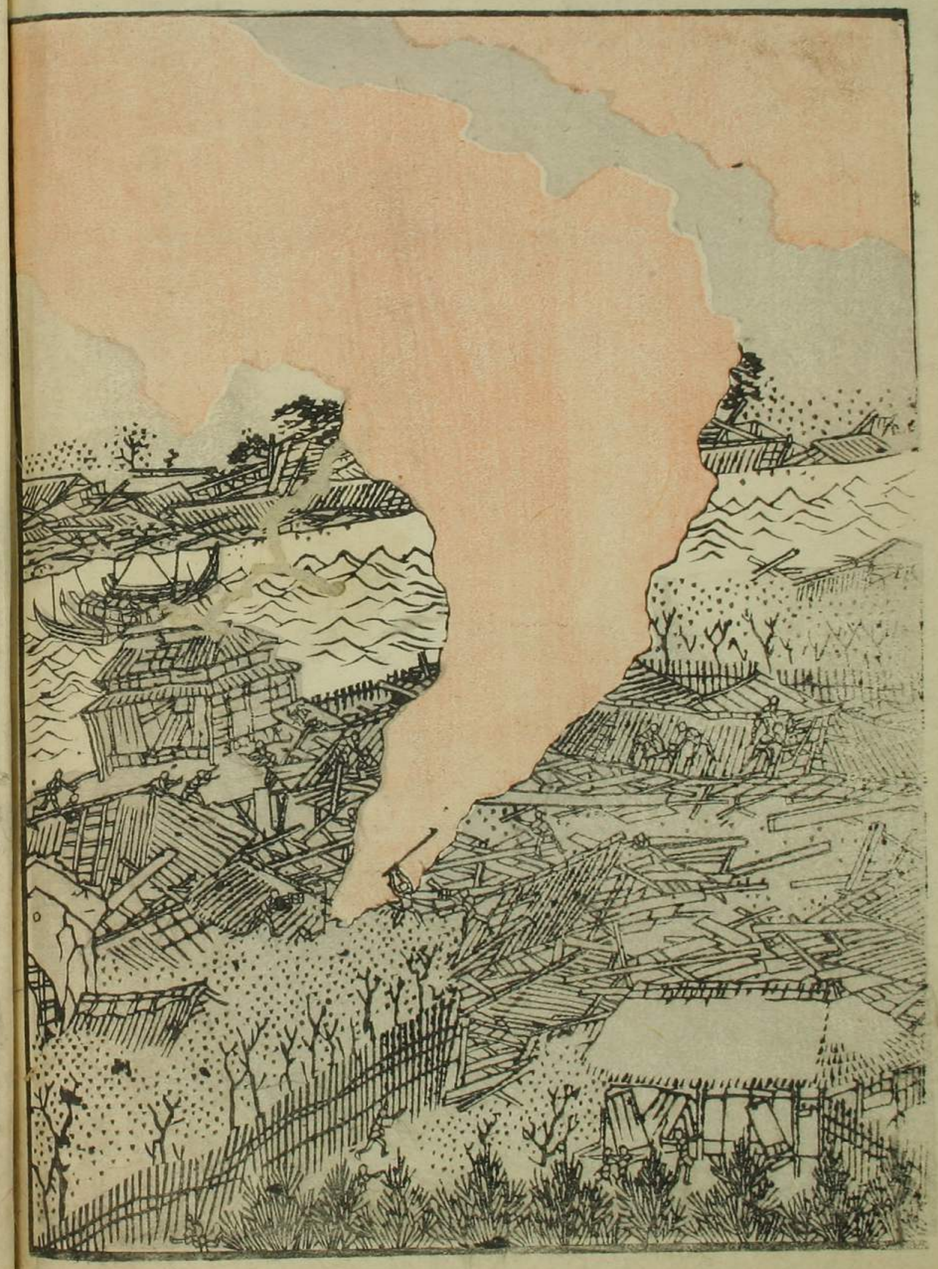
馬喰
國周画

十三 同中之口石示丁武丁四ケ所割下ノ辺ヲ取ク武家小屋紀尚主所家ヶ所
流失ノ破損ヲ蒙安体ノ者ヲ示ス

十四 同小方石示町荒井丁二丁焼ル

十五 同小文小割下ノ辺丁壱丁ヲ焼ル同小松軍用所破中屋敷破中屋敷
細川能光破中屋敷焼料理小会所ヲ焼ル〇同東方橋爲妙見堂壱矣外八渡壱
武家勤士場壱壱矣外口方ノ小屋敷民部渡壱家墓多〜小林村ノ家ヲ焼
祇師堂壱矣塚内大破損





十三 同中之口石示丁武丁四ケ所南割下ノ辺ニ西ノ武家小門紀尚主所家ノ焼
流ノ破板ニ飛安体ノ多キ中ニ示ノ多キ

十四 同小方石示町荒井丁二丁焼ル

十五 同小方小割下ノ所丁ニ丁ニ同小松軍用所板中門紀城ノ板下中紀
細川能登板中門紀焼耕理小会所ノ所ノ〈同東方桐島妙見堂ノ会矢ノ八渡ニ
此ノ武士場ノ長ノ示口方ノ小門紀民部洗ノ家墓多〳〵小林村ノ泉ノ示堂
祖師堂ノ会矢流内大破板

十六 東南方ノ示ノ同濱〳〵湯源ノ指丁ノ丁余門ケ所ノ武士以ノ破板焼失
同ノ同ノ示ノ岩石垣ハ大川ニ流示ノ多ク門端ノ通流ノ手ノ川中ノ所ニ
最初ノ人ノ

十七 能戸天神社ノ会矢流内大破板同示門前丁二丁焼ル又同示角自分番所ノ
出火ノ所ノ小火示ノ小ノ所ノ文ニ辺小中紀民部家洗家多ク元焼失同板ノ示

多〳〵△若妻表本下川色又百姓漢手郎氏を辺り方尚如手多く焼亦小悪弘光

十八 日西方法恵ちつあ出村丁手郎西側を焼る△二間稲荷白雄社内小祠ち

拝石塚向高一尺△日潟西川西方小作宿大橋向之分ハ墨之南方民家結髪や

大破横中程小尚且家あり

十九 小塚東丁西側焼る氏地最揺強く ち乗小船る所多〳〵日南方中村丁大破

横法家多く焼失日あん日南方山谷渉東丁二丁日南方元吉丁粉多戦丁

四丁目東横ち表屋ち乃林ち日東側表倒ち稲荷院宗林ち当寺ち光照ち

源照ち日〻二丁目〻ち日二丁目大変る貴白ち日小東側源寺ち瑞泉ち安慶ち

通照ち手郎横の沈色までの中 横ち院本堂 鐘楼 碑 牌 一切破横の表

悪く表〳〵 強〳〵